

優秀賞

家族とのつながり方

中札内中学校一年 五十嵐 真次郎

僕の家は会社を経営している。父が社長で母は経理担当だ。

父は朝早くから仕事に行き、帰ってきてからも家の中で仕事をしている。

一方、母は家事や送迎などの仕事をしている。

僕の家庭は男は働きに行き、女は家で仕事という昔の考え方に当てはまるかもしれない。しかし、これはしかたないこともある。もし、母も外へ働きに出たいと言ったとしよう。そうすると家の仕事をする人がいなくなってしまう。だから僕の家では少しきびしいかもしれない。

僕が今、好きなことをやらせてもらっているのは親の協力があるからだ。もしかすると父は、もっと仕事だけでなく、僕の兄や姉のところへ行き、応援してあげたいと思っているかもしれない。

母は父がいない分、家の仕事はすべてやらなければいけない。もしかしてバリバリのキャリアウーマンになりたいと思っけていてもあきらめていないかもしれない。二人とも子供のことを第一に考えて自分のやりたいことをやれていないかもしれない。そんな両親にもう一度感謝しなければいけないと思った。

男女平等とは何とも難しい問題だ。僕の家庭のように、男も家事や育児に参加しようとしても中々そういかないこともある。だから一がい男が家事などをすればいいということでもないと思っけて、お互いに納得して、それぞれの役目をはたして支え合えるのなら男が仕事に行き、女が家事をする、またはその逆でもいいと思っけて。